

緊急オンライン企画

能登半島地震から考える 原発と避難

第1回

1/23

18:00-

地震被害の
実態は？

ジャーナリスト

藍原寛子さん

第2回

1/30

14:00-

問われたことは？

珠洲市在住

北野進さん

2024年2月23日

能登半島地震で改めて明らかになった 原子力防災の欠陥

国際環境NGO FoE Japan
満田夏花

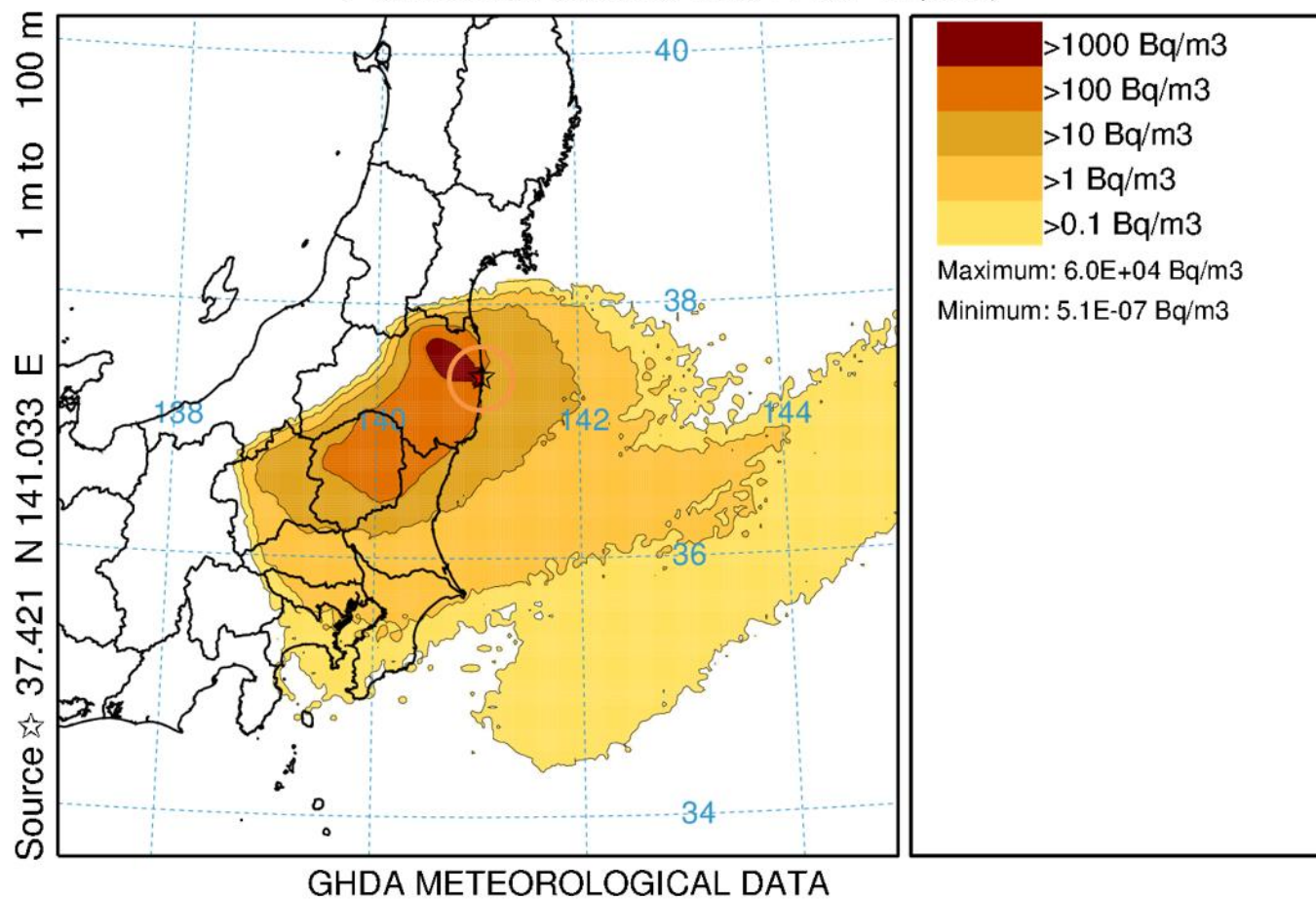
Attachment B-2: Animation of ^{131}I dispersion in atmosphere

I-131 Air Concentration

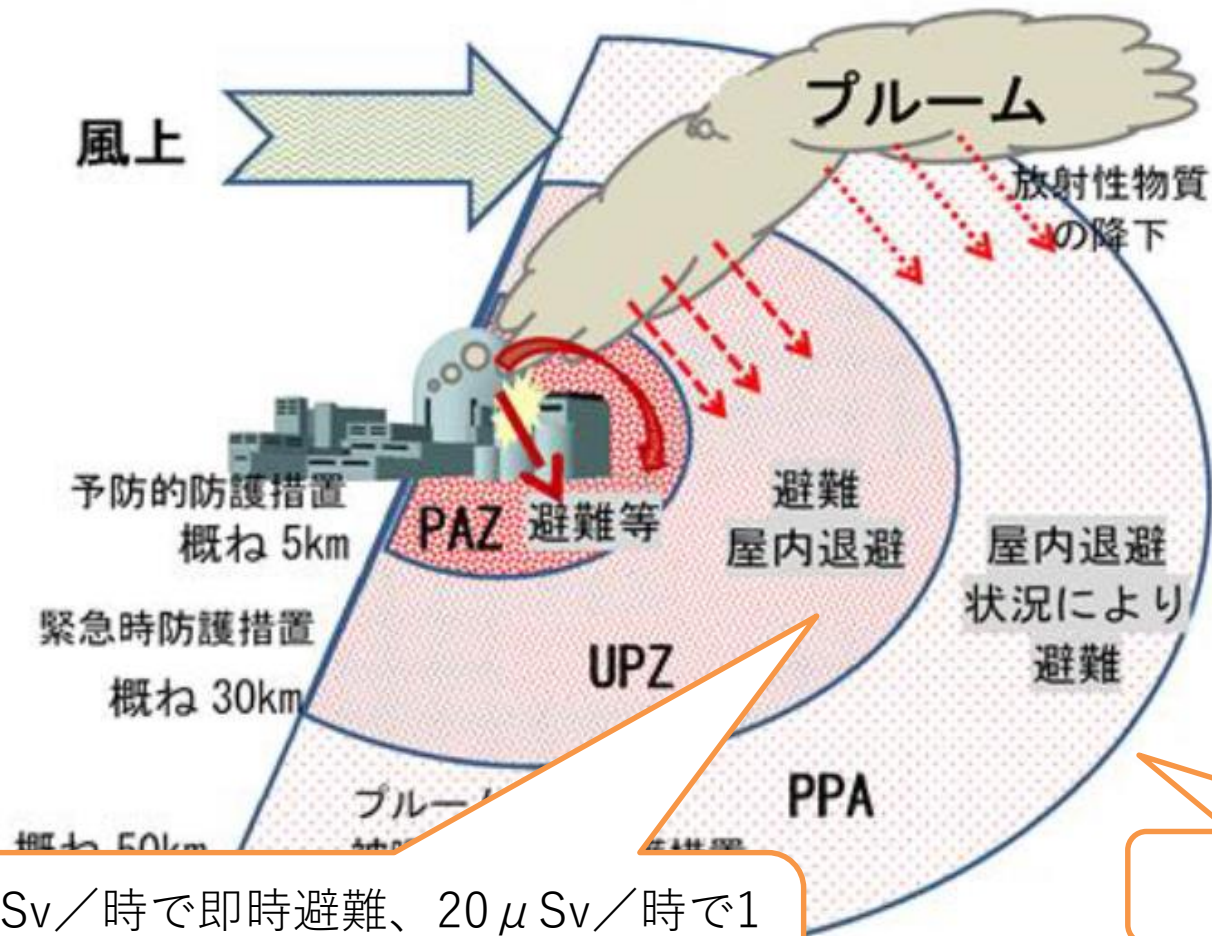
Concentration (Bq/m³) averaged between 0 m and 100 m

Integrated from 0600 15 Mar to 0900 15 Mar 11 (UTC)

I-131 Release started at 1800 11 Mar 11 (UTC)



原子力災害対策指針



500 μ Sv/時で即時避難、20 μ Sv/時で1週間以内に一時移転
指示ができるまでは屋内退避

立ち消えに



<5km圏内>

PAZ(予防的防護措置を準備する区域):

Precautionary Action Zone

⇒ 急速に進展する事故を想定し、事故が発生したら直ちに避難等を実施する区域

1町(志賀町)

住民数: 4,145人※

<5~30km圏内>

UPZ(緊急時防護措置を準備する区域):

Urgent Protective Action Planning Zone

⇒ 事故が拡大する可能性を踏まえ、避難や屋内退避等を準備する区域

5市4町(石川県七尾市、輪島市、羽咋市、かほく市、志賀町、宝達志水町、中能登町、穴水町、富山県氷見市)

住民数: 159,402人※

5

災害が発生したら

原子力災害が発生し発電所の状況や周辺の住民の方々が受ける放射線の量が一定のレベルを超えると予想される時などは、状況に応じて「屋内退避」または「避難」の指示が行政機関から出されます。町、県は関係機関とも連携し、あらゆる情報伝達手段を活用して、事故の状況、指示や注意事項など、住民の皆さんへ必要な情報を迅速かつ正確にお知らせします。



1. テレビやラジオのスイッチを入れ、国や県から発表される情報に注意してください。



2. 広報車、防災行政無線、インターネット（ホームページ）などによる町からの情報を確認し、その指示に従って、落ち着いて行動してください。



3. 緊急でない限り、私用電話や問い合わせ電話は控えてください。



4. 不用な外出は控え、指示があるまで自宅等で待機してください。

5. うわさやデマに惑わされないよう注意してください。

6. 大災害発生時は、電話がつながり難くなりますが、災害時でもかかりやすい「災害用伝言ダイヤル（171）」が利用できます。

自主避難する方が増えると、交通渋滞で避難指示された方々の避難する時間が長くなります。行政機関からの指示に従いましょう。

屋内退避の指示が出されたら

屋内に退避することにより、放射線の影響を少なくすることができます。屋内退避の指示が出された場合も、落ち着いて冷静に行動してください。指示の内容をよく理解し、指示に従ってください。

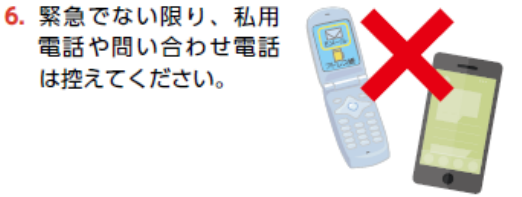


1. 屋外にいる人は速やかに、自宅や職場、近くの公共施設などの屋内に入ってください。



2. 原則として外出はしないでください。

3. 外にいた人は、屋内に入ったら着替えて顔や手足を洗い、うがいをしてください。着替えた衣類は、ビニール袋に入れ、袋の口をしっかりと閉めてください。



5. テレビ・ラジオ・防災行政無線等による行政機関からの指示などに注意してください。
6. 緊急でない限り、私用電話や問い合わせ電話は控えてください。



7. 窓や扉など外気の流入する場所から離れて屋内の中央にとどまってください。



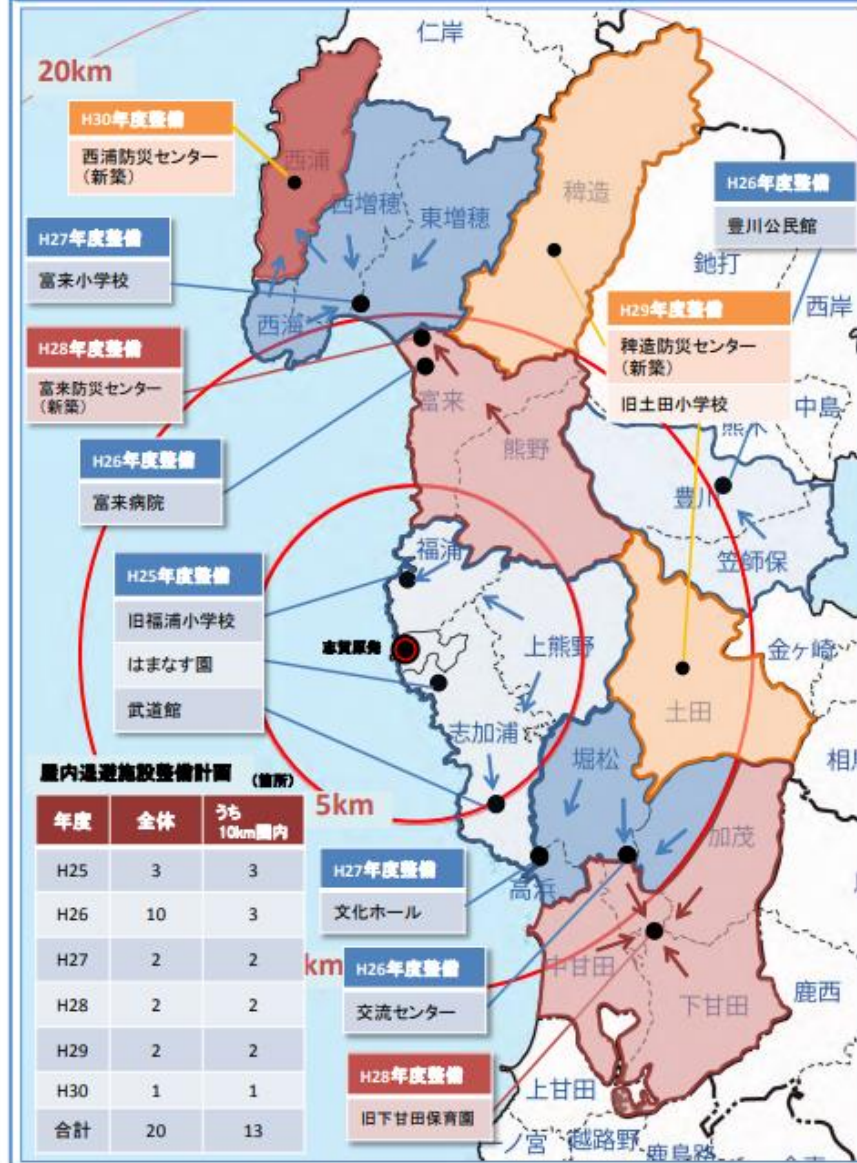
8. 食料品の容器には、すべてフタやラップをしてください。特に指示がなければ、屋内に保管してあるものを飲んだり食べたりすることは差し支えありません。

基本的な避難ルート



屋内退避施設の整備について

10km圏内の屋内退避施設整備図



現在の原子力災害対策指針 およびそれに基づく避難計画	震災で生じたこと 指針・避難計画の内容との乖離
5km圏内（PAZ）では、原子力施設の状態の基づき、「全面緊急事態」となったら避難開始 事前に配布されている安定ヨウ素剤を服用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家屋倒壊・津波で、一刻も早い避難が求められた。 ・ ヨウ素剤を探し出し、服用するような余裕はない。 ・ 通信が断絶された地域も多く、避難指示が伝わらない。
30km圏内（UPZ）では一定の線量になるまで屋内退避。 （屋内退避によって、被ばくを防げるという前提となっている）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家屋倒壊・津波で、一刻も早い避難が求められた。 ・ 屋内退避で指示を待つような状況ではない。 ・ 場所によっては、農業用ハウスや、車中泊、倉庫などでの避難も余儀なくされ、被ばく防護などできない環境下に置かれる。
30km圏内（UPZ）では一定の線量で避難指示	<ul style="list-style-type: none"> ・ モニタリングポストの欠測が生じていた。 ・ 通信が断絶された地域も多く、避難指示が伝わらない。
避難は、国道、県道などの主要な幹線道路を使って、決められた避難先に避難	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路の寸断、地盤隆起で、避難は困難 ・ 避難先も被災 （志賀町の3分の1、穴水町は、能都町、珠洲市に避難することになっていた）
避難退避時検査（スクリーニング）の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 渋滞および混乱は必至 ・ 自治体職員のキャパシティを超える
安定ヨウ素剤は拠点備蓄、避難の途中で配布	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治体職員に備蓄拠点まで安定ヨウ素剤をとりに行き、途中で配布するような余力なし

福島原発事故の教訓

- 複合災害...地震・津波・原発事故
- 広範囲にわたった放射能汚染
...30km以遠の飯舘村も全村避難
...60kmはなれた福島市も $20\mu\text{Sv}/\text{時}$ 超
- SPEEDIが活用されず、汚染の方向に避難
- 守られなかった「緊急時マニュアル」
- 困難をきわめた要援護者の避難

賛同募集

能登半島地震で露呈した
原子力災害対策指針の欠陥
「原発動かさないで」

2024年1月30日まで